

中 学 校

平 成 8 年 度

教 育 研 究 員 研 究 報 告 書

社 会

東 京 都 教 育 委 員 会

平成8年度

教育研究員名簿（社会部会）

分科会	氏 名	学 校 名
地 理 的 分 野	加 藤 直 子	江東区立深川第七中学校
	中 山 徹	品川区立荏原第三中学校
	後 田 博	世田谷区立山崎中学校
	◎ 藤 崎 勝	荒川区立原中学校
	○ 石 坂 克 己	練馬区立石神井西中学校
	関 谷 文 宏	足立区立第十四中学校
	神 田 正 美	八王子市立加住中学校
	門 脇 伸 也	武蔵野市立第四中学校
公 民 的 分 野	荒 川 嘉 雄	千代田区立一橋中学校
	木 戸 久 子	杉並区立松ノ木中学校
	塩 野 賢 一	板橋区立高島第三中学校
	大 橋 一 道	江戸川区立松江第四中学校
	○ 杉 山 肇	国立市立国立第三中学校
	河 太 久 哉	田無市立田無第四中学校
	森 哲 弘	多摩市立多摩中学校
	小 林 昭 文	檜原村立檜原中学校

◎ 世話人 ○ 副世話人

担当 指導部中学校教育指導課指導主事 松 本 秋 広

目 次

研 究 主 題 『自ら考え、主体的に学ぶ生徒を育てる指導の工夫』

I 地理的分野	『生徒自らが課題を設定し、 課題の解決に意欲的に取り組む指導の工夫』…………… 1
	－E U 諸国の学習を通して－
II 公民的分野	『学ぶ意欲を持ち、自己の考えを表現できる場がもてる授業』…………… 13
	－「高齢者と社会福祉」の単元構成を学習者の立場から構成し、これからの在り方を提言する指導内容の構成と指導方法の工夫・改善－

I 地理的分野の研究

生徒自らが課題を設定し、課題の解決に意欲的に取り組む指導の工夫
－ E U 諸国の学習を通して－

1 主題設定の理由

21世紀を目前とした今日、我が国においては、国際化・情報化・核家族化・高齢化・価値観の多様化などの社会の変化が著しく進んでいる。このような社会の変化に伴い、生涯学習の基礎となる力として、「自ら考え、主体的に対応していく能力の育成」が求められている。第15期中央教育審議会の第一次答申においては、「生きる力」を「自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する能力」ととらえている。社会科においてこの能力を育成するには、問題解決的な学習が有効であることは、さまざまな小学校における研究・授業実践により明らかにされている。しかし、中学校においては、問題解決的な学習についての十分な検証が積み重ねられていない。

地理分科会では、「生きる力」の育成には問題解決的な学習が有効であると考え、問題解決的な学習を「適切な課題を設けて行う学習」（以下課題学習）の中に位置付け、意図的に行う指導法の研究を、3年間を見通しながら進めていくことにする。つまり3年生時の公民的分野において課題学習の中に問題解決的な学習を取り入れ、義務教育修了時に「生きる力」の基礎を生徒が身に付けることをねらいとする。

問題解決的な学習は、生徒自身による学習課題の設定、課題の追究、課題の解決、新たな課題の発見という4つの段階の流れで学習が行われる。この流れの中で、特に生徒の興味・関心や生徒の生活体験を重視した課題づくりから調べ活動を始めることによって、最後まで意欲的に学習に取り組めることに着目し、できるだけ1年生の段階から、生徒自らが課題を設定することが出来る力の育成が必要であると考え、上記のような主題を設定した。

2 研究のねらいと方法

(1) 研究のねらい

ア 多くの場合、受け身の学習になりがちな生徒が、課題の設定・追究・解決に意欲的に取り組むことができる、地理的分野での指導の工夫を明らかにする。

イ アについて、特に生徒自らが課題の設定ができる資料と支援の方法を工夫する。

(2) 研究の方法

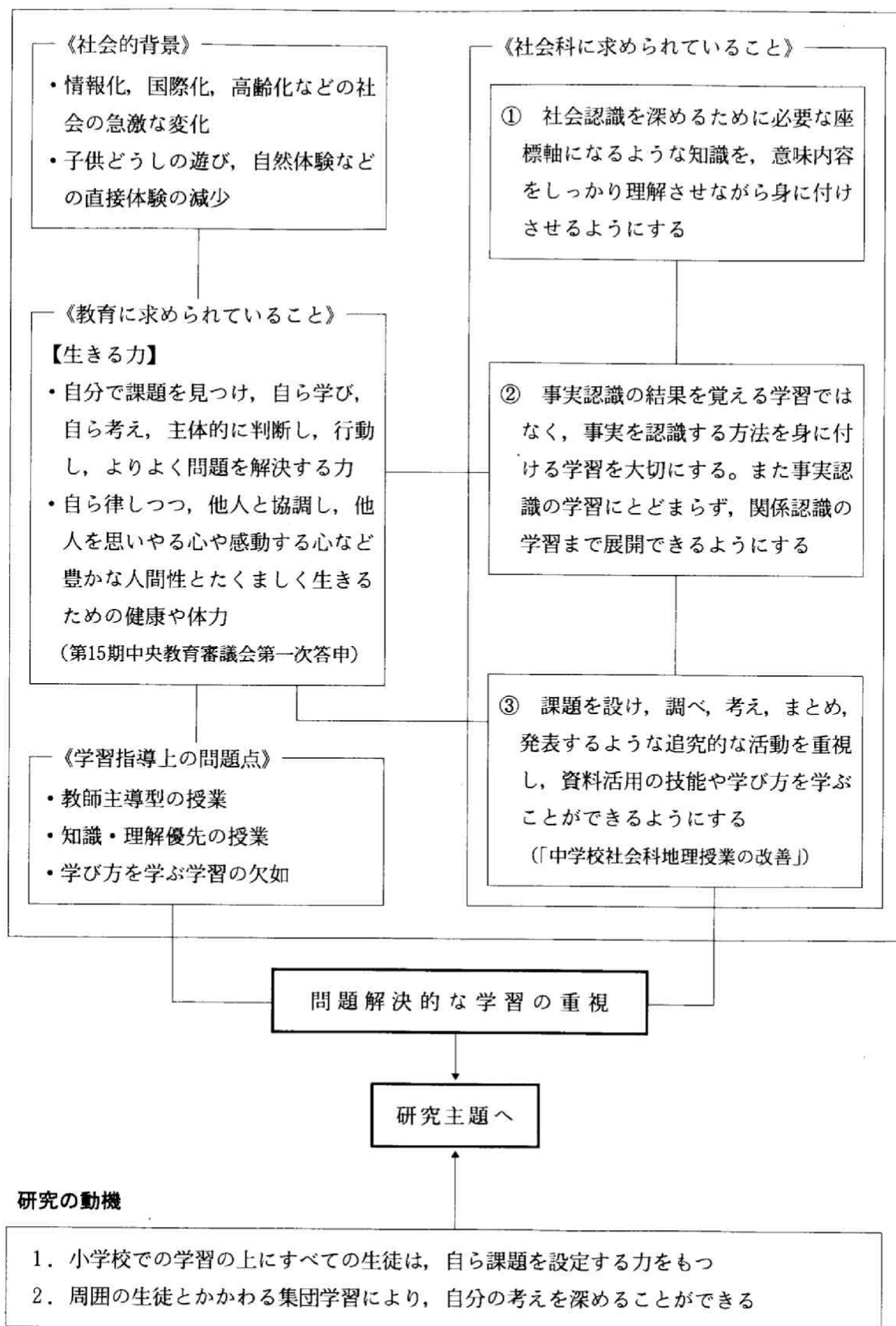
ア 生徒自らが課題の設定ができる資料（ビデオ資料・手紙資料・クイズ資料）を研究・開発し、8時間構成で指導計画を作成し、検証授業を行い、授業の改善を図る。

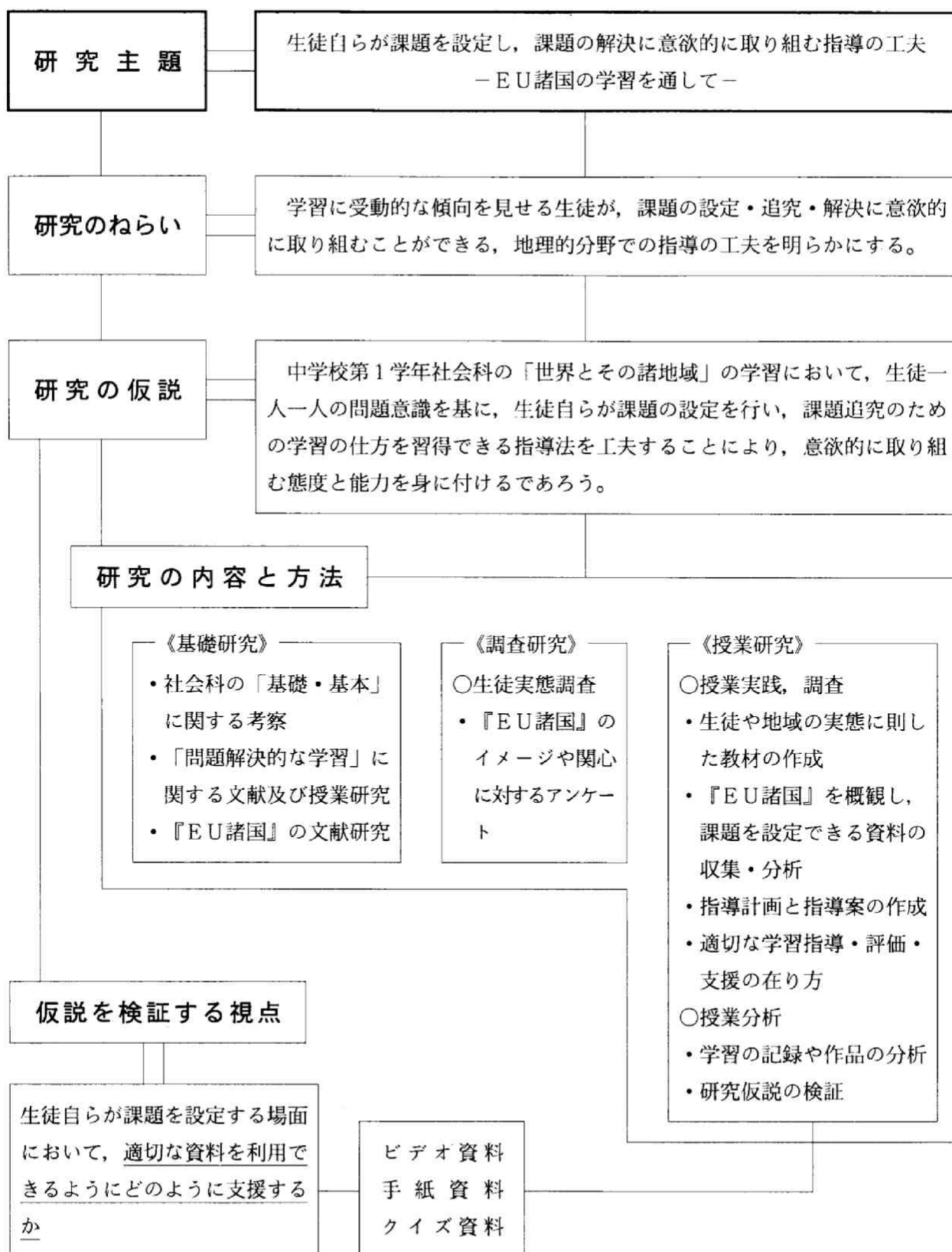
イ 課題を設定する場面で「4段階問題学習づくり」を重視する。

※「4段階問題学習づくり」とは、①ニュース・ソース、②内容、③②と関連する知識や経験、④学習問題＝追究問題の4つのステップで、生徒の既存知識や経験を学習課題につなぐことの重要性に気付かせるものである。

研究の全体構想図

研究の背景





2 時	各グループの学習課題報告 (思・技)	各グループの学習課題を発表する。	他のグループの学習課題への関心をもつよう、発表を聞く態度について指示する。
3 時 ・ 4 時	第2時の計画により調査活動 (技)	図書室での調査活動 発表の準備をする。 学習新聞づくり (P7・資料⑤)	地域の図書館などで可能な限り調べる事を伝える。 ※特設コーナーを図書に設置して支援する。 まとめを事前に配布するよう指導する。
5 時 ・ 6 時	調査した内容・方法の発表 (技・思・知)	各グループの発表は、約5分とする。意見交換や質問を行う(約5分)。 プリントや掲示物をもとに平易な説明を心掛ける。	内容の近い発表は、引き続くように配慮する。 調査内容だけでなく調査方法や手順も発表するように指導する。
7 時 ・ 8 時	ま と め (関・技・思・知)	全グループの発表を整理する。 EU諸国の姿を理解する上での補足を教師より受けて、整理する。	生徒は発表しなかったが、EU諸国の姿を理解する上で必要な項目について補足説明する。 生徒が発表した内容をできるだけ構造化し、EUの全体像がとらえられるようにまとめる。
事後調査	EUの学習を終えてのアンケート調査	①「EUの国々を知っているだけ書いて下さい」 ②「EUの国々を勉強して、EUの国々に対して見方や考え方が変わったことを書いて下さい」 ③「EUの国々と日本との関係は、今後どうなるとおもいますか」 ④「このような調べ発表学習についての感想を書いて下さい」 ⑤「EUの国々について、もっと知りたい事を書いて下さい」	

(関=関心・意欲, 技=技能・表現, 思=思考・判断, 知=知識・理解は評価の観点として記載した)

※ 本分科会では「問題」を個人的・主観的なもの、「課題」を集団的・客観的なものとする。つまり、「問題」は、元来その人個人が感じたもの、見出したものであって、他人はそう感じたり考えたりしないものであることが普通なのである。一方、「課題」の方は個人レベルのものもあるが原則的には集団に課せられた取り組む必要性のものであって、他人にもその必要性が理解され、認められる性質のものと言える。

4 ビデオ資料による課題設定（検証授業の分析）

(1) 授業記録（指導計画の第2時）

男子生徒2名と女子生徒2名を追跡調査した。

本時の指導では4人とも授業に集中することができなかった。女子生徒の場合、一人は美術学校について調べたかったのに、グループ課題はフランスの食卓になるなど、二人とも自分の学習問題とはかけはなれたグループ課題となった。しかし、調査・まとめ活動では、グループのメンバーと共に活動し、意欲的に取り組むことができた。したがって、個人の学習問題を基にして、グループの学習課題を作るという過程で、授業者に支援の仕方をもう少し工夫する必要があるものと考ええる。

男子生徒C・Dは、個人学習問題づくりもうまくいかず、本人の学習意欲はあまり高くなかった。しかし、グループが作った学習課題についての調査・まとめ活動では、中心となって行動し、発表会へ向けて大切な役割を果たした。本人の問題意識を基に、「生徒自らが課題の設定を行う」という点では、後者の男子生徒2名のような生徒に対する適切な資料を利用した支援の在り方を、さらに検討しなければならない。しかし、課題追究の仕方を習得させるという点では、一定の成果を上げ得たものと考ええる。



グループ学習課題作り

(2) ワークシートの分析（右の資料①～④参照）

4段階学習問題づくりのワークシートと、グループ学習課題づくりのワークシートは、生徒一人一人が感じた疑問を基にして、問題意識を深めることをねらいとしている。このワークシートを活用した学習課題づくりが、今回の研究のポイントの一つである。

残念なことは、個人の学習問題づくりとグループの学習課題づくりが交錯し、「なぜまた同じことをやるのか」と感じつつ、グループ学習課題づくりへの参加がおざなりになった生徒もいたことである。

しかしながら、ワークシートの記載例を見るように、自分が感じた疑問から出発し、具体的に何を調べたらよいかを考えるプロセスを、見ために分かりやすくするものができたものと考えている。

(3) 学習新聞づくりの過程（右の資料⑤参照）

資料を得にくい課題を設定してしまったグループの中には、課題を設定しなおしたものもあった。また、半ばあきらめて、調査不足のまま報告したもの、調査方法を工夫して最後まで追究したものなどがあった。

右の学習新聞は調査方法を見直して、海外生活経験者にインタビューを試みて完成させたものである。調査方法は図書室・図書館で資料を探すだけではないということを、十分に体得したものと考えられる。

総じて、生徒一人一人の問題意識を基に、生徒自らが課題の設定を行い、課題追究のための学習の仕方を修得できる指導法の工夫により、意欲的に学習に取り組む態度と能力を身に付けさせるというねらいは、ある程度達成できたものと考ええる。

資料① 個人の学習問題設定

テーマ（学習問題）を考へよう

	1年	2年	3年
EU諸国の人々の暮らし			
④ 学習問題づくり			
① 「ニュース」	「 <u>ドイツの暮らし</u> 」		
② 「疑問を感ぜぬニュース」	では、		
「 <u>南にありふれた国</u> 」			
と書いていたが、本当かどうかわからない。なぜかというところ。			
③ 「疑問をもたないニュース（真実）」	へつに 南にありふれた国 さういふ国でも、		
と書いたから、			
④ それで私は	「 <u>ドイツの暮らし</u> 」に ある国は について調べたみたいと思った。（＝学習問題）		
⑤ テーマ決定	山手テーマ		
⑥ テーマづくり	「 <u>ドイツの暮らし</u> 」について		
⑦ テーマ	なぜ 南にありふれた国		
と書いていた。			

資料② グループ学習課題の 設定

グループ学習問題を作ろう

EU 諸国の人々のくらし	国
--------------	---

1組 2組 3組 4組 5組

① 国名(所)

② 生徒 A. B. C. D

③ 国名の語学学習問題

A 好き な言葉で D 酸性雨
 B TV を見る!
 C

④ 学習問題の説明を聞いて「コメント」

じゃなく出ていた。

⑤ それで見たらほ

好き な言葉で TV を見る。

に ついて 調べたみたいと 思った。(一学習問題)

サテーマ 夜食

① サテーマ

好き な言葉で TV を見よう!

② サテーマ

日本 には 好き

③ 自分が調べること

資料③ 調査・発表方法の分
担

調査活動について、くわしく計画しよう	
① 何を調べるか	好きな言葉でTVを見るについて調べる。
② 誰が、どこで調べるか	A < B どんな言葉があるか。
③ いつ、どこで調べるか	都合がいい日
④ 調査の方法はどうするか	せうと紙を新聞
⑤ 調査の分限はどうするか	5人のグループ
⑥ 集めたデータをどうするか	集めたデータを調べる
⑦ 結果を（表・図）に整理する	永く大株も株株 三城黒 新聞
⑧ 結果の発表はどうするか	3枚の紙の両面をつくる
⑨ 発表の準備	みんなで作る
その他	

資料④ グループ学習問題

テーマ	サブテーマ (調査内容)
ヨーロッパの農業	ワインとオリーブ畑 (ワインの作り方、オリーブとは?)
ヨーロッパの食事	フランス、イタリア、スペイン等の代表的料理とは?
ヨーロッパの車	ヘッドライトの色とハンドルのこと
EU加盟国と非加盟国	加盟国の特徴、加盟国と非加盟国の共通点とちがいを
EU諸国の食事	飲み物 (ワインなど)
EUの規則	イギリスから輸入するときのヘッドライトはどうするか、など
フランス人の食卓	ワイン
ヨーロッパの食事	

資料⑤ 学習新聞の例

E U の
ヘッドライト

フランスのヘッドライトとイギリスのヘッドライトの色が違い。

EUの国では、車のライトは黄色い。
イギリスの国では、車のライトは白色。

なぜフランスのヘッドライトの色は白でイギリスのヘッドライトは黄色なのか？
それは、イギリスでは、平原が多く、霧が出やすい。そのためヘッドライトの色が白だとよく見えなくて、事故が多かったから。その土地に合わせた工夫なんだよ！

では、フランスの国から他の国の車を輸出するときは、ライトは、どうなる？
フランスから輸出する場合は、ライトの色は変える。

車の問題ですらあります。イギリスの道路は左側通行。フランスの道路は、右側通行のため左側のヘッドライトの光の強さがちがう。これは、反対車線の運転手にライトがあたって運転しにくくなる。交通事故のもと。こういう問題は、イギリス→フランス→フランス→イギリスを車で走りまわると必ず気づくと思う！！この場合どうなる？

イギリス車：左側通行、強い光（黄色）
フランス車：右側通行、弱い光（白色）

イギリス車 → フランスに行く時 → フランス車になる（強い光を消す）
フランス車 → イギリスに行く時 → イギリス車になる（強い光を出す）

E U ってよくわかんないや！
ライトとか道路とか、バラバラなところあるのは、大変なんだよ!!

5 手紙資料による課題設定

(1) 手紙資料（手紙の内容は文献を元に教師が作成したもの。一部を抜粋）

スペインからの手紙

H o l a !（オラ） 日本の中学生のみなさん、こんにちは。

私の名前はフェリサ。スペイン南部のアンドルシア地方にある、アルモンテという村に住んでいます。これから私の住むスペイン南部の生活について紹介します。

スペインでは、風景や生活様式が地方によって違います。

私の村のまわりには、みわたすかぎりのヒマワリ畑やオリーブ畑がどこまでも続いています。春になると、野原にはアマポーラやマーガレットがいちめんに咲き乱れ、とてもきれいです。

私の住んでいる家はもちろん、このあたりの家の壁は、白く塗られています。村の中央にある古い教会の壁も真っ白です。部屋の中の下半分はアラベスク紋様のタイルがはられています。家の奥にはパティオがあり、美しい焼き物の鉢や花などで色どられています。

スペインは、世界第3位のワインの生産国です。私の家の畑ではこのワイン用のぶどうを作っています。ワインを作るには何段階もの作業があり、古いものだと100年以上も、倉庫にねかせているものがあります。できあがったワインはびんにつめ、ラベルをはって、スペインの各地方に出荷していましたが、最近は輸入する制度が変わってヨーロッパの国々にもたくさん出荷するようになったとお父さんが言っていました。

スペインでは、昼食がもっとも大切な食事です。午後2時頃から4時頃まで時間をかけてゆっくり、たくさん食べます。（後略）

(2) 生徒自らが設定した課題例

- | | |
|----------------------------|---------|
| ・なぜ、スペインの家の壁は白く塗られているのだろうか | 《自然・気候》 |
| ・どのようにしてワインを作るのだろうか | 《気候・農業》 |
| ・スペインの人たちはどんなものを食べているのだろうか | 《食生活》 |
| ・どうして、日曜日に教会に行くのだろうか | 《文化・宗教》 |
| ・ヨーロッパで共通に使えるお金ってなんだろう | 《EUの制度》 |

(3) 資料の特性と手紙を導入に取り入れた効果

- ・手紙という形で資料を提示したことにより、難しいイメージがなくなり、個人名を出したことで資料に関しての親近感が感じられる。
- ・手紙の内容を生徒（日本）の生活実態を基に作成したことにより、自分の体験と比較しやすく疑問が生まれやすい。
- ・何度も読みなおすことができるので、一人一人のペースに応じてじっくり取り組むことができる。

6 クイズ資料による課題設定

(1) クイズ資料（一部を抜粋）

- ・ソーセージといえばドイツ。ドイツのソーセージの種類はどれくらい？
A 100種類 B 500種類 C 3000種類
- ・意味が日本と全く逆になるギリシャのジェスチャーは？
A うなずくとNO B 手の平を向けると来い！ C 笑う＝おこっている
- ・ローマ・パリ・ロンドン・ベルリン、稚内より北にある都市はこのうちいくつ？
A 0 B 1 C 3
- ・北海から地中海まで、大西洋を通らずに船で航行することは可能？
A YES B NO C 今はできないがまもなくできるようになる
- ・EU内では、カードを見せるだけで他の国に買い物に行くことができる？
A YES B NO C 今はできないがまもなくできるようになる
- ・EUの旗には星がいくつある？ ちなみに現在のEU加盟国数は15か国です。
A 6 B 12 C 15
- ・ベルギーの一般家庭でみられるテレビのチャンネル数は？
A 3 B 10 C 30
- ・EU諸国のたいていの町や村に共通してあるものは？
A 教会 B 交番 C 日本車の工場

(2) 生徒自らが設定した課題（質問文）例

- ・なぜドイツにはとてもたくさんの種類のソーセージがあるのか。《農業→気候》
- ・イギリスは北海道よりずっと北にあるのになぜ温帯なのか。《気候》
- ・北海から地中海まで船でどのようにして行くのか。《運河→交通網》
- ・外国に買い物に行くのに、お金が違うから不便ではないのか。《EU（通過）統合》
- ・なぜベルギーではテレビのチャンネル数が多いのか。《言語の違い→文化の多様性》
- ・なぜEUには教会がたくさんあるのか。《宗教→キリスト教の宗派、民族の違い》

(3) 資料の特性とクイズを導入に取れ入れた効果

① 資料の特性 ―クイズを課題設定の手がかりに利用した理由―

- ・強い疑問・興味を喚起し、課題を追究する意欲をもたせることができる。
- ・学習内容のねらいにあった課題を設定させることができる。
- ・問題点がわかりやすく、誰でも自分の関心に合った課題を設定することができる。

② どのような効果が生まれたか

- ・すべての生徒が学習に積極的に取り組むようになった。
- ・調査活動後、さまざまな工夫をこらした発表が行われた。

（実践例）『EUの旗の星の数が、加盟国が15か国であるのになぜ12個なのか』という疑問について調べた班は、自分たちの話し合い活動の中で生まれたさまざまな案を全員が発表し、誰が正解を言ったか考えさせるというクイズ形式で発表を行った。

7 導入方法の比較検討

	ビデオによる導入	手紙による導入	クイズによる導入
課題設定上の利点	○視聴覚教材は内容が具体的に理解しやすく、強い興味・関心をもって課題の設定にのぞむことができる。 ○EU諸国の全体像をつかむことができ、文章での理解も容易になる。	○生活のようすが具体的に記述されているので、生徒自身の生活の体験と比較しやすく、疑問も生まれやすい。 ○よびかけのことばから始まる手紙なので、内容に親しみが感じられる。	○どの生徒も主体的に参加でき、誤答を恐れず自由に考えることができる。 ○課題を容易に設定できる。 ○強い関心・意欲を喚起することができる。 ○知識や技能の確認ができ、話合いの場が増える。
問題点	●視聴が受動的になり、具体的な疑問点が生まれにくい生徒がいる。 ●問題意識をもたずに漫然と視聴する生徒は、自ら疑問をもてるはずの場面を見落とす可能性がある。 ●内容により、設定される課題が限定される可能性がある。	●受動的な生徒の場合、文章の内容の理解のみにとどまり、具体的なイメージがわきにくい場合がある。 ●取り上げた地域が限定されているので、他のEU諸国とのつながりを生徒がどうとらえるのかという問題がある。	●内容的には限定され、課題も生徒が自ら設定したものといえない面がある。 ●設定される課題が知識・内容面重視のものとなり、それを成立させる地理的条件の考察に結びつかない場合がある。 ●疑問の解決が、資料不足で困難な課題もある。
問題点への対応	・ビデオの視聴中に、ポイントとなる事実などを指摘する。また、一時停止して解説を行う。 ・いくつか内容の異なるビデオか編集したビデオを見せる。	・日本の生活と違う点に下線を引きながら読むなどの指示をする。 ・調査活動の際に、他のEU諸国との共通性や相違点も気付くように援助する。	・調査活動をする中で生まれる疑問を大切にし、その疑問やそれが生まれた理由・背景についても発表するように援助する。 ・補助資料を教師が豊富に用意する。

(まとめ)

	関心・意欲の喚起	EUの全体像の把握	課題設定の容易さ	課題設定の主体性	課題内容の充実度
ビデオ	○	◎	△	◎	△
手紙	△	○	○	○	◎
クイズ	◎	△	◎	△	○

3つの導入方法について、5つの観点から比較してみた。

8 研究のまとめと今後取り組むべき課題

(1) 研究のまとめ

ア 生徒は、1年であっても自ら課題を設定することができる

生徒は、「課題」を他から課せられるものと考え、自ら設定したこともなく、できないと考えられていたが、「4段階問題学習づくり」においてほとんどの生徒は個人の学習問題を設定することができた。その内容も個に応じたさまざまなものがあり、広範囲にわたった。それを基に、生徒は自らグループの学習課題を設定することができた。

イ 生徒自らが課題を設定することで学習に意欲的に取り組むことができる

生徒自らが設定した課題のため、課題の追究に関して意欲的に取り組む生徒の姿が見られた。これは教師から与えられた課題ではなく、それぞれの資料を基に生徒自身の生活経験や既存知識から出た課題であったためと考える。つまり生徒にとって、本当に知りたいと思うことを調べることができたからである。

特に指示はしていなくても学校の図書室だけではなく、地域の図書館や外国大使館・政府観光局にまで足を運んだり、海外で生活したことがある人にインタビューしたりするなど、課題の解決方法を自ら考え意欲的に取り組む生徒の姿も見られた。

ウ 話し合い、考え、協力して調べ、発表した充実感が、次の学習への意欲につながる

自分たちの知りたいことを、調査方法を工夫して、調べ、発表することにより、充実感・満足感・成就感を得ることができた。「自分たちもやればできるんだ」「調べたかいがあった」など、この充実感を味わえる学習こそ、生徒が受け身でなく主体的・意欲的に活動する源であり、次の学習に自ら意欲的に取り組もうとする態度につながると考える。

エ 課題を設定する場面での教師の支援が重要性である

生徒自らが課題を設定する場面で、教師が適切な支援ができない場合、逆に学習意欲を低下させる場合もある。したがって、生徒自らが課題を作るときに、次の4点には特に配慮して支援を行う必要がある。

① 見通しもなく、思いつきで課題を設定する生徒への支援

課題がその生徒の発達段階や学力に見合っているかどうか、解決の手だてや見通しがたつか、助言を与える。

② 資料の収集などの見通しや条件を考慮しないで課題を設定する生徒への支援

資料の収集の見通しがあるか、生徒が利用できる本があるか、助言を与える。

③ 着眼点や発想はすばらしいのだが、うまく課題が設定できない生徒への支援

生徒の考えを整理、構造化して適切な課題になるように助言を与える。

④ 社会科、地理の授業であることを見失い、興味本位に課題を設定する生徒への支援

授業のねらいを踏まえて、追究しがいのある課題かどうか助言を与える。

オ 「問題解決的な学習」の実践は、教師自身の充実感につながる

時間がかかるとか、指導が面倒臭いとかいったイメージがあるが、生徒とともに授業をつくる発想で、課題設定と話し合い、発表の聞き方等の工夫をすれば必ず大きな成果を上げられる学習である。

(2) 今後取り組むべき課題

主題設定の理由でも述べたが、今回の研究は中学校における問題解決的な学習への取り組みの第一段階として行ったものである。今後取り組むべき課題を以下に挙げる。

ア 「調査・発表学習」で終わらず、自分の考えをもてるように助言することが必要である

受動的な生徒には、まず「自分で課題を設定し調べる楽しさ」を経験する、いわゆる「調査・発表学習」から入ることも必要である。今回の研究において、生徒は「調査・発表学習」のねらいは達成できたと考える。しかし問題解決的な学習のねらいは「自分なりに考える力」を育成し主体的に行動することである。つまり「事実」を調べさせるだけでなくなぜそうなっているかなどについて自分なりに考えさせていかなければならない。それゆえ、「調査・発表学習」の成果を生かして、さらに生徒自身に発展した学習を期待したい。

イ 「話し合い活動」の指導に力を入れる必要がある

今回の研究ではある程度予測はしていたが、自分自身で考えを深めたり、集団で考えあったりすることが十分にできないことがわかった。特に他の人に向けて説明する力が弱い。周囲の生徒とかかわる集団活動や共同思考により、自分の考えが深まるという考えに立って問題解決的な学習を進めていくには、「話し合い活動」の充実が不可欠である。

温かな雰囲気の学級集団・一人一人の性格・グルーピングの方法・リーダーとなる生徒の育成など「話し合い活動」を進める上で必要な条件が多数考えられる。

ウ 問題解決的な学習が適した単元と指導計画を研究する必要がある

課題学習の中で、問題解決的な学習を取り入れることを考えた場合、6～10時間の指導計画が必要である。年間指導計画をしっかりと立てなければ、課題学習を行うことは難しい。調べ学習の計画を連休や長期の休みに設定するなど工夫することも必要である。

また、3年間を見通したカリキュラムの中で、どの単元が問題解決的な学習を行うのに適しているかを考える必要がある。今回は変化を続けている『EU諸国』を課題学習の単元としたが、他に地理的分野では「世界とその諸地域」の『人々の生活と環境』や「日本とその諸地域」の『身近な地域』、また公民的分野においては『消費者問題』や『福祉の問題』など、さまざまな分野で意図的にくり返し取り扱わなければ、目指す力を育成することができない。

エ 個やグループに応じた指導への組織的な体制づくりを研究する必要がある

授業時間の中で、一人の教師がすべての生徒やグループに対して、十分な支援を行うことには限界がある。今回のようなグループ学習においても、より多くの支援の時間を取ることができれば、さらに意欲的な学習につながる事が予想される。学習指導の工夫とともに、個やグループに応じた指導を一層推進するために、チーム・ティーチングの活用など、より細やかな指導体制が必要である。

Ⅱ 公民的分野の研究

学ぶ意欲を持ち、自己の考えを表現できる場がもてる授業
～「高齢者と社会福祉」の単元構成を学習者の立場から構成し、これからの社会
の在り方を提言する指導内容の構成と指導方法の工夫・改善～

1 主題設定の理由

社会科では、常に変化していく社会的事象を一人一人の生徒が多角的にとらえ、自ら考え判断する中で、民主的で平和的な社会を形成していこうとする態度や、そのために必要とされる能力の基礎を養成することを課題としている。

従来の講義中心の教授型の授業は、あらかじめ予定した知識や、社会的事象を的確に認識するために必要な資料活用などの技能を効率よく伝達することができるが、生徒にとっては受け身がちな授業になりやすいといった問題がある。知識や技能は、個々の生徒が社会的事象を自らの問題としてとらえ、考えた結果として身に付けていかないと、基礎的教養として定着したり、いわゆる生きた力となることはない。

そこで本分科会では、個々の生徒にとっての疑問や問題意識から授業を構成することによって自らの問題として学ぶための意欲を育て、自分なりの解決方法を探る中で必然的に知識理解や技能獲得を促す問題解決学習的な手法を試みることにした。その際、問題解決のための調査活動と、調査内容をもとにした発表・討議・ロールプレイ的パネルディスカッションなどによって自らの考えを表現する場を段階的に設定することにした。このことにより生徒は自ら調査活動をやり切った達成感を原動力にして、自分なりの考えを基に意見交換することができる。だから、自分では満足していた考えや、場合によっては調査方法・伝達方法などに対しても問題点に気付くことができ、さらに考えを多角的に深めて行くことができると考えている。こうした構成によって、将来にわたって考え続けていこうとする態度を育成していきたい。

2 研究のねらいと方法

(1) 単元設定の理由

1970年以降、我が国は高齢化社会に突入し、2020年には人口の約4分の1が高齢者で占められるようになるといわれている。この問題は単に高齢者福祉の問題だけでなく、日本社会の様々な分野に影響を与えていく社会的課題である。それだけに、21世紀の高齢社会を支える生徒たちが、高齢化社会の現状や問題点などに関心をもち、社会における個人の役割や、自己の生涯を通じた生き方にもふれて考えていこうとする学習が必要だと考える。この学習を通して、高齢者と共に人間らしく生きていける社会を作っていこうとする立場に立ち、このような社会の実現に向けて将来にわたって考え続けていこうとする態度を育てていきたい。以上の理由から、中学校学習指導要領「社会」、公民的分野(2)「国民生活の向上と経済」を扱うこととし、「高齢者と社会福祉」を単元として研究を進めることとした。

(2) 研究のねらい・仮説・方法

ア 「生徒が意欲的に問題を追究していくための指導の在り方を工夫する」

仮 説／生徒の問題意識を尊重しそれを追究していく過程を支えていくことによって達成感や満足感が生まれ、学習意欲が継続する。

方 法／① 事前意識調査を実施し、授業の展開に生かす。

② 各時間のワークシートを工夫し、進行状況に合わせて教師や他の生徒からの助言やアドバイスが生かせるようにする。

③ 生徒の活動に合わせて作業単位（個別活動・生活班・分野別グループ）や教室内の学習環境を工夫するとともに、複数の資料もあらかじめ用意する。

留意点／調査課題の設定範囲を社会福祉のしくみに限定せず、高齢者とふれ合う活動なども視野に入れて、生徒の興味・関心が発揮しやすい活動を促す。

イ 「学習内容を深め、その結果を自分の考えに反映させていく授業構成を工夫する」

仮 説／調査活動と、発表・討議・ロールプレイ的パネルディスカッションなどの他者とのかかわり合いが積み重なる工夫をした指導計画を作成することによって、学習内容は深まり、自ら考え、判断する態度や能力が育成される。

方 法／① ワークシートや調査報告書・提言などによって、学習内容や問題意識の高まりなどの変化の過程を把握する。

② それぞれに目的をもった次の3つの積み重ねを設定して授業を構成する。

予備的段階 …個々の興味・関心に基づいて設定した課題を、他者とのかかわり合いの中で再検討したり、調査方法を考え合ってから個別に調査を行う事で、社会的事象と自分とのつながりを発見する。調査後、班発表と質疑を設定。



第一次段階 …調査した項目を基にジャンルごとに組分けをして、それぞれの立場に立ったロールプレイ的パネルディスカッションで提言を行う。準備作業を通して、自分なりの考えをもつために着目したい事実に出会う。



第二次段階 …ロールプレイによって生じた視野の広がりや、そこから生まれた疑問点を再調査することによって、自分なりの考えを再構築し、提言をまとめることによって自らの変化を確認する。

3 指導計画

(1) 単元名「高齢者と社会福祉」

(2) 指導目標

ア 高齢化社会の現状に関心をもち、高齢化の進展に対する課題や問題点を考えようとする社会的態度を育てる。

イ 高齢化社会をめぐる問題は多岐にわたることに気付き、集団討議によって調査方法や調査計画を設定することの大切さを理解する。

ウ 高齢化の進展に対して、行政や企業などが様々な施策を講じていることを知り、討議によって考えを深める。

エ 社会福祉の向上・発展のためには、国民一人一人が社会の見方や考え方を広げることが大切であることを理解する。

(3) 指導計画

時	学 習 内 容	学 習 活 動	指 導 と 評 価
第 1 時	高齢化社会の現状を知る (高齢化のすすんだ背景) 興味や関心に基づく学習課程の把握 学習課題の自己選択	・事前の調査の結果やビデオ資料を利用して、高齢化によって社会がどう変わっているのか、その現状と今後について考える。	・資料の選定、収集ができたか。 (関心に応じて) ・バリアフリー、介護と被介護、財産・年金等、関心をもった内容を仮の学習課題としたか。
第 2 ・ 3 時	自己の設定した仮の学習課題の検討 調査の方法について、指導を簡単にし、調査計画を立てる。 調査方法を選択・調査計画の検討	・どのような課題があるか行政、企業・医療関係、福祉団体・地域活動、個人・家庭など4つに分かれる。 ・調べる学習を通して課題(真)を設定し、調査活動をはじめる。	・調査計画が妥当なものか ・集団討議によって設定できたか。 (以上自己評価) ・調査方法の選択が適切か ・役割の分担によって、調査のまとめがより具体的になっているか。 ・学習環境の自己設定は課題に迫る上で適切か。
第 4 時	学習環境の選択と調査結果のまとめ 問題の共有化	・調査目的と調査方法が一致できたか調査のまとめを行う。 ・ロールプレイ的パネルディスカッションの説明を聞き、論題を知る。 ・調査結果をまとめ、発表原稿としてまとめ、班内発表を行う。	・調査したことがらを発表できるかたちにまとめられたか。 ・自分で取り組んだ課題をはっきり説明できたか。 ・パネリスト、フロアーの役割がしっかり理解できたか

第 5 時	役割演技や集団討議の準備 ロールプレイ的パネルディスカッションの準備	・パネリストは、立場をはっきりさせ、発表原稿をつくる。 ・フロアーは、それぞれの立場に対し、要求や要望を新聞の投書や聞き取り調査時の資料を使って出し合う。 ・税金や消費税など福祉の財源にふれながら討論原稿をつくる。	・高齢化に対する施策や今後の展望をはっきり書けたか。 ・それぞれの立場に対し、福祉社会の発展と向上を目指す視点に立ち質問を出し合えたか。 ・発表時に資料として提示するグラフや表が適切か。
第 6 時	立場討論 4つの立場からディスカッションをする。 ロールプレイ的パネルディスカッション	論題「高齢者にとって住みやすい社会をつくるにはどうしたらよいか。」 ・行政 ・企業・医療関係 ・福祉団体・地域活動 ・個人・家庭	・調査した内容に基づいて論拠を明確に示せたか。 ・資料を提示し、わかりやすい説明、質問ができたか。 ・進め方に従って、教師または生徒がコーディネーター役を務める。
第 7 時	再調査活動を「これからの社会の在り方」－高齢者が豊かに暮らす－のテーマで行うフリーディスカッションをする（約15分）。 再調査・学習の深化	・これまでの学習の成果を自己のレポート作成に生かす。 ・班の体形にもどって発表者を選出する。 ・発表しない人は、発表を聞いて、要点や疑問点・調べたい点を記録する。	・十分理解できなかった内容について、質問窓口に行って積極的に聞いたか。 ・これまでの学習成果を自分の意見に反映しているか ・発表の仕方について、自己評価・相互評価が適切に行えたか。

(4) 評価の観点

- ア 課題の把握や探究に進んで取り組み、学習方法や調査計画を自ら設定できたか。
- イ 調べた内容をわかりやすく、簡潔に表現することができたか。
- ウ 高齢化問題を多角的に捉え、討議によって考えを深められたか。
- エ 福祉社会の向上・発展にとって、国民一人一人が社会の見方や考え方をしっかりもつことの大切さを理解できたか。

4 検証授業

〈第1時〉高齢化社会の現状を知る。(高齢化の進んだ背景)

(1) 本時の目標

- ア 高齢化社会の到来の要因を理解し、興味・関心をもつ。
- イ 急速な高齢化社会の諸問題を知り、課題設定ができるようにする。

(2) 展開

	学 習 活 動 ・ 学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点
導入 5分	1. 事前調査のアンケート集計結果を配布してクラス全体の考えを知ると共に、自分の考えと比較する。	・まだ老後の生活など考えたこともないと予想されるので時間をかける。 ・10歳～14歳の人口の比較と65歳～69歳の人口を比較することによって、将来は少子化と高齢化になることを理解させる。
展開 35分	2. 昭和35年の人口ピラミッドと平成27年の人口ピラミッドを比較してみる。 人口ピラミッドがどのように変化しているか、感じたことをワークシートに各自記入しその要因についても考える。 高齢化社会を理解する。	・子どもの減少の理由⇒非婚の増加、出生率の低下（高学歴、女性の就業、教育費、居住環境）など ・高齢者の増加の理由⇒医療の発達、環境の変化、食事の変化など
まとめ 10分	3. 生徒自身に老後の長さを実感させるために、大正9年のライフサイクルと現在のライフサイクル（標準）を比較、記入する。（P20の資料を参照） 昔のライフサイクルと現在のライフサイクルの違いを比較し、その問題点を考える。 4. 高齢化社会の諸問題を自ら考え、調べてみたいことを設定できるようにする。 5. 今日の学習の感想を書く。	・自分の人生といっても、生徒にとって将来のことは、考えられない部分が多いので、目安として日本人の各平均年を書かせる。 ・昔に比べて、老後の時間が長いことに気付かせる。その時間をどう過ごしているのか、どう過ごしたらよいのかを考えさせる。 ・身近な問題とするため、親とのかかわりの中で、同居や介護を考えさせる。 ・これからの学習についての流れを説明する。

(3) 評価

- ア 人口ピラミッドを比較して、その変化をワークシートに記入したか。
- イ ライフサイクルを記入し、自分の人生の老後の時間について考えようとしたか。
- ウ 急速な高齢化社会によって発生する諸問題を知り、仮の課題設定をしようとしたか。

〈第4時〉 個人調査のまとめと報告

(1) 本時の目標

ア 小集団の中での発表ができるようにする。

イ 他の人の発表を聞くことによって高齢化社会を様々な視点からとらえるようにする。

(2) 展開

	学 習 活 動 ・ 学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点
導入 8分	1 個人調査のまとめの準備 ・まとめに必要な資料や発表用原稿の作成に必要な資料類を整える。	・準備が整った後、2時間後に行うロールプレイ的パネルディスカッションの説明と、その論題を発表する。論題「高齢者にとって住みやすい社会をつくるためにはどうしたらよいか。」
展 開	2 ロールプレイ的パネルディスカッションについて学ぶ	・ディスカッションを行うためには、これからの発表をしっかりと聞くことが必要であることを理解させる。
30分	3 まとめ作業と発表準備 ・班内での発表にむけて各自調査結果をまとめる。	・発表は1人2分程度とする。 ・自分の取り組んだ課題が何であるかをはっきり伝えられるように指導する。
10分	4 班内個人発表と質疑応答 (班内に同一分野が多い場合は、班を組み替える必要あり)	・わかりやすい説明を心掛けさせる。 ・人の発表には簡単なメモをとらせる。 ・特に質問ができるようにしたい。 ・次の時間では他の分野の班への質問や意見を出すのでしっかり確認しておくように指示する。
まとめ 2分	5 同一分野班での活動 ・同一分野班で各自の調査項目と班内での発表時に受けた質問の報告。 ・質問への答弁準備	・答えられなかった質問については次回までに再調査をしておくことを指示する。 ・ディカッション時に予想される質問については答弁できるようにさせておく。
	6 次時予告	・次回に必要な用意（プリント、模造紙等）があれば聞いておく。

(3) 評価

ア 調査結果に基づいた発表をしようとしていたか。

イ 他の人の発表をしっかりと聞こうとしていたか。

ウ 自分の学習課題以外の分野から高齢化社会をとらえようとしていたか。

〈第6時〉 ロールプレイ的パネルディカッション

(1) 本時の目標

ア ささまざまな資料を基にして、「高齢者と社会福祉」について、それぞれの立場に立って考える。

イ パネルディスカッションの討議法に基づいて、一人一人の生徒が、討議とかかわり、自らの考えと比較する。

(2) 展開

	予 想 さ れ る 学 習 活 動	
導 入	それぞれの立場から資料を使ってわかりやすく説明する。(持ち時間各4分)	・フロアーの生徒は、パネリストの考えの要点をまとめ、質問事項が出せるようにする。
展 開 1	(行政側) 行政サービスでは、ヘルパー、家事援助者などさまざまな政策をとっている。また、福祉電話など新しい試みを行っている。高齢化社会のために、老人を支える若者が少なく、支える側の負担が増大するとともに、支えられる側の保障が不安定となることなど財政的な課題がある。 (企業・医療関係) ① 労働力の確保については、ふだんから頭を悩ましている。 ② 高齢者の雇用、はっきり言って厳しくなる。 ③ 介護用品は様々な種類を生産している。ただし、社会一般にはまだ普及しているとは言えない。今後は、情報通信の発達により消費者がそれらを取捨選択できるようになっていくと考えている。 (福祉団体・地域活動) ① 公民館では、高齢者のための講座を開き、高齢者になっても快適な生活が送れるように啓発事業を行っている。ただし、受講者がいつも限られているなど問題点も多い ② 健康上、人の手を借りて生活せざるを得ない人は増加している。 ③ 若い世代のボランティアに対する関心は増えているものの、まだ社会人が自分の意思によってこのような機会がなかなか取れないのが現状である。 (個人・家庭) 私は、現在、一人で年金生活によって生活している。趣味と言え、歩く会に入って月に一度ハイキングに行くこと。できるだけ息子夫婦には迷惑をかけずに生活をしたいと考えている。でも、もし、身体が動かなくなった場合には、どうするか今から不安だ。だからといって相談できる人はあまりいない。	
展 開 2	・フロアーからの質問は協議を行って出しても良い。その場合協議時間は3分間とする(質問時間は5分間) 例 (行政に対して) 新聞記事にもありましたが、行政側はあまりにも都合の良いことばかりを言っている。例えば、高齢者の介護のことは家庭で責任をもってやる必要があると言っておきながら、いつも弱者に対しては親身になって考えてくれない。 ・質問が続く場合には、パネリストから随時説明をするように司会者は配慮する ・最後に各パネリストから説明したりなかった点を補充する。(各3分)	
ま と め	・今日の授業で納得がいかなかったことについて次時までには再度質問できるように ・反省や改善点を出し合い、自己評価をする。 パネリスト…早口になってしまい、フロアーにわかりやすく説明できなかったのが次時に質問があれば聞くようにしたい。 フロアー…質問を用意していたがはっきり言えなかった	

(3) 評価

ア 「高齢者と社会福祉」について、それぞれの立場から考えることができたか。

イ パネルディスカッションによって、一人一人が自分の考えを深めようとしたか。

5 検証授業の考察

導入→課題設定→調査→発表→ロールプレイ的パネルディスカッション→提言という学習形態で全体を7時間構成とし授業を進めたが、ここでは指導計画に沿って、導入、課題の設定から調査活動およびロールプレイ的パネルディスカッションの準備から実施、について考察を述べていきたい。

(1) 導入について

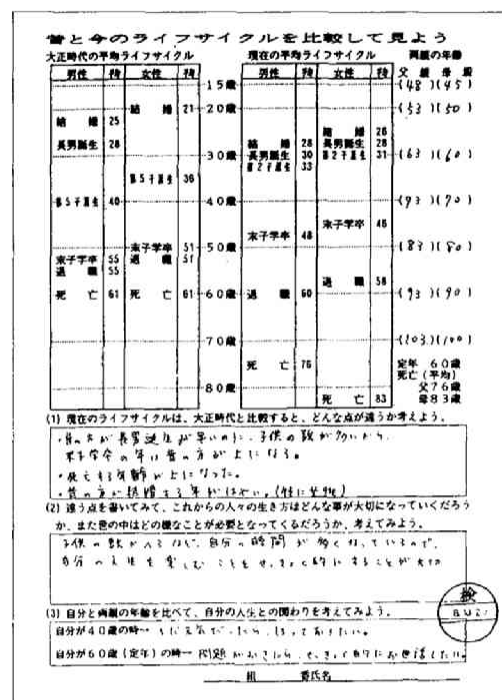
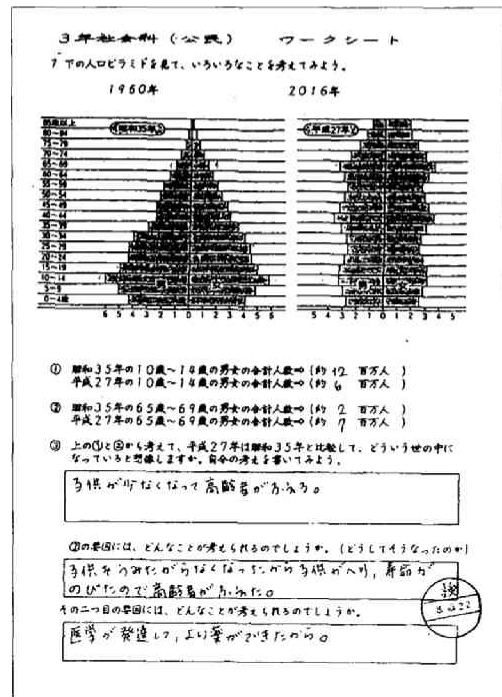
① 検証授業1

導入では右にあげた2枚のワークシートを用意し、作業を通して生徒が高齢化社会を実感としてとらえ、高齢化によって生じる様々な問題に気づくことをねらいとした。作業には熱心に取り組むことができ、「人口ピラミッド」を使った作業では、高齢化がすすむ要因について、少子化や医学の発達、非婚者の増加などさまざまな視点からとらえることができた。「ライフサイクル」を作る作業では、記入に時間にとられたため、これをもとに高齢化社会の諸問題に気付くのは、困難であった。また、班では意見交換も十分に行なわれなかったことから、問題の広がりには気付いたり、興味や関心を高め意欲をもって自己の課題を見付けるという目標は達成できなかった。

そこで、生徒が高齢化社会の様々な問題に気付き、興味や関心をもち自己の課題を設定することができるようにするため、班での意見交換・発表の時間を確保し、また生徒がすでにもっている高齢化社会に対する知識を深めるため、意識調査の読取りを十分に行なえるよう、第1時・第2時をひとつながりの導入の時間に位置付け、再度検証を行なった。

② 検証授業2について

生徒に、自己の課題を追及する調査活動をすすめる学習の意義についての説明を行ったことで、それぞれが課題を探そうという意欲はかなり高まった。また、上にあげた改善点にそって、班での意見交換・発表の時間を確保し、意識調査の結果を生徒にフィードバックさせて考える時間を与えたことで、今まで気付かなかった新たな問題に気付き、興味・関心を高めることができた。この結果、ほとんどの生徒がこの時間の終わりには仮の課題を設定することができた。



(2) 課題の設定から調査活動について

この段階では、各自が設定した仮の課題を、調査方法の検討を加えながら真の課題に発展させ、調査方法を決定し、調査活動をする、という流れで行った。

課題の設定では、導入の時間に考えた仮の課題を基に生活班の単位で話し合いを行い、具体的な調査方法などのアドバイスをお互いにし合えるようにした。また、教師もワークシートに助言を書き込み、班での話し合いに生かせるようにした。この結果、大半の生徒が他の生徒や教師の助言を基に、調査の方法を視野に入れたより具体的な課題を設定することができた。(仮の課題から真の課題への変化は次頁の表に示す) なお、実際に調査を始めてから課題を変更する生徒も数人あった。調査の方法では予想以上に関係機関への訪問を希望する生徒が多かったことも、調査活動への意欲の高さを示すものと思われる。

調査活動は図書室を使い、市図書館から借り受けた関係資料、教師作成の資料などを自由に閲覧してよいこととした。はじめ、ロールプレイの分野ごとに席をとったが、協力者どうしが集まって相談するなどの活発な動きが見られた。「介護用品について調べたいのだが」と相談をもちかけた生徒に対して、教師が「電話帳で調べる方法もある」と助言し、それを受けて班の別の生徒から「作っている会社に電話したら」というアドバイスが出るなど調査方法のわからない生徒に対しては教師の援助だけでなく、生徒相互のアドバイスもあり各自の課題をどんな方向から追究していくのが次第に明確になっていった。

訪問調査は、事前の関係機関との連絡を調べ学習と並行して教師が援助して行っていたが、実際の訪問調査は放課後の時間や休日を行った。にもかかわらず、多くの生徒が参加し、現場で働く人々やお年寄りの話をうかがい、自分自身の目で確かめられたことは、文献調査では得られない貴重な体験であり、このことによって調査の内容にも深まりが出たと思われる。

調査活動を終えた後、一人一人が調べた内容を生活班の中で発表した。内容についての質疑応答はロールプレイの場に譲り、ここでは「自分が調べた内容」をみんなの前で「言える」ことに重点をおいたが、全員が自分なりの発表をすることができた。

調査活動



班での意見交換



資料 『学習課題の設定に見る生徒の変容』

第一時終了後のワークシートを累計した結果からの抜粋 生徒が調べてみたいと思っていること [仮に設定した学習課題]
(考慮中)
老人病院
なぜお年寄りが長生きするのか
老人は本当にお金をもっていないのか
(考慮中)
老後、施設に入る時、どのくらいお金がかかるか
高齢者向け各種サービスは進んでいるか
年金は、どのくらいか
高齢者が快適に暮らす住宅
今、お年寄りのためにどんな事をしているのか
高齢者の住宅対策
(考慮中)
高齢者の家計・貯蓄・不動産
どうして老人ホームに入らなければならないのか / なぜ世帯で暮らす、子供はたくさんいるのか
なぜ子供が少なくなっているのか
東京都は高齢化社会について、どんな政策をしようとしているのか
福祉施設に入らなくても、家で施設なみの介護ができるか
(考慮中)
老人は金持ちか
高齢化社会を知っている高齢者が、この事をどう考えているのか
昔とくらべて、どのくらい医療が発達しているのか



第三時終了後のワークシートを累計した結果から 実際に調べること	アドバイスを受けて決めた 調査方法
① 地域の福祉対策	役場の担当部署に④
② 老人病院の実態	老人専門病院へ④
③ なぜ、お年寄りが長生きするのか	高齢者へ④+ホームの調査をしている人へ④
④ 老人は本当にお金をもっていないのか	厚生省へ④
⑤ 高齢者にとっての生きがいとは	老人ホームAへ④
⑥ 老後、施設に入る時、どのくらいお金がかかるか	老人ホームBへ④
⑦ 高齢者向け各種サービスに、どんなものがあるか	役場の担当部署に④
⑧ 年金について	役場の担当部署に④
⑨ 高齢者のための介護用品	介護用品メーカーに④+カタログ請求
⑩ ホームヘルパーはどんなことをしているのか	老人ホームAへ④
⑪ 高齢者の住宅対策	建築関係の会社などに④
⑫ 高齢者の一日の過ごし方	老人ホームAへ④
⑬ 高齢者の家計・貯蓄・不動産	資料調べ(教科書など)
⑭ 高齢者の生活環境で老人ホームに入り、そこでいっしょに暮らしているのか	老人ホームBへ④
⑮ 高齢化社会に向けて、色々な企業の対策	パート 新聞 雑誌 資料 などどの会社へ④
⑯ 東京都は高齢化社会について、どんな政策をしようとしているのか	東京都社会福祉センターへ④
⑰ 福祉施設に入らなくても、家で施設なみの介護ができるか	老人ホームBへ④
⑱ 年金はどのくらいか、家で暮らすの資金はあるのか	役場の担当部署に④
⑲ 今、老人ホームなどでは、どのような介護をしているのか	老人ホームBへ④
⑳ 高齢化社会を知っている高齢者が、この事をどう考えているのか	アンケート + 老人ホームAへ④
㉑ 医療の発達や、医療の進歩のために医療費はどのくらいか	総合病院へ④

↑調査ジャンル/①行政 ②企業・医療関係 ③福祉団体・地域活動 ④個人・家庭

【第1時間】 ワークシート 氏名 _____

★今日の授業を通して、高齢化社会の問題で自分にとって関心したこととは？
 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

★どうして理由で老人ホームに入らなければならないのか？
 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

★なぜお年寄りが長生きするのか、なぜ子供が少なくなっているのか？
 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

★高齢者向け各種サービスは進んでいるのか？
 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

★年金は、どのくらいか？
 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

★高齢者が快適に暮らす住宅？
 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

★今、お年寄りのためにどんな事をしているのか？
 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

★高齢者の住宅対策？
 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

★高齢者の家計・貯蓄・不動産？
 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

★高齢者の生活環境で老人ホームに入り、そこでいっしょに暮らしているのか？
 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

★高齢化社会に向けて、色々な企業の対策？
 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

★東京都は高齢化社会について、どんな政策をしようとしているのか？
 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

★福祉施設に入らなくても、家で施設なみの介護ができるか？
 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

★老人は金持ちか？
 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

★高齢化社会を知っている高齢者が、この事をどう考えているのか？
 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

★昔とくらべて、どのくらい医療が発達しているのか？
 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿



【第3時間】 ワークシート 氏名 _____

★先週からのアドバイスを参考に、高齢化社会の問題で自分がかかり調べたいことは、どんなことだろうか？
 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

★それを調べるための方法をまとめよう。
 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

★あなたが調べたいことは、次のどのジャンルに入ると思いますか？
 ①行政 ②企業・医療関係 ③福祉団体・地域活動 ④個人・家庭

第7時に生徒が書いた

「これからの社会のあり方

—高齢者が豊かに暮らすためには—

行政、企業、医療、福祉団体、地域活動、個人、家庭の立場すべてに言えることはやっぱりお金が必要だということだと思ふ。すべての国民が払う大事な税金です。そう簡単に行政改革できるものではありません。行政は国家予算の28%も福祉関係に費やしていますが、まだ足りないということです。そこで、やっぱり国民一人一人の意思だと思います。どこかの国ではこういうことわざがあるそうです。親が子を育てるのは情ですが、子が親を世話するのは知なんだそうです。本当にその通りなのかはわからないけど、高齢化社会がどんどん進むにつれて、この考えは大切なのではないかと思います。そんな中で老人とのふれあいの場をもつこともとてもいいことだと思った。老人は経験が豊富だから、もっとたくさんのお話を子供たちに教えることもいいことだと思います。そして老人が住みやすい社会ができればいいと思いました。

今まで高齢者にとって住みやすい社会とは安全が第一だと思っていた。しかし、今回のいろいろな立場からの主張を聞き、私が考えていたのは個人的なお年寄り自身の考えで、行政、企業などの色々な視野から見つめることで考え方が変わった。私はもっと高齢者と若い世代の交流を増やすべきだと思う。今、核家族が増えどうしても高齢者とのふれあいが少なくなりがちだ。老人ホームや保護施設に入ったからといって精神的負担が少なくなったわけではない。生活することは楽になるが、施設入居希望があとをたたないのが現状だ。年金や保護費用など、ほんの少しの収入でどうやって暮らしていけばいいのだろうか。私自身まだよくわからないことが沢山あるが、だれもが生きがいを見つけて生き生きと暮らせるふれあいなどのあるそんな社会を日本は築いていくべきだと私は思う。

(3) ロールプレイ的パネルディスカッションの準備と実施について

ロールプレイの分野の分け方は、行政、企業・医療関係、福祉団体・地域活動、個人・家庭と、各自の課題を大別して4つに分類したが、人数の大きな偏りはみられなかった。ただ、課題の設定の過程で老人福祉問題を取り上げたビデオを視聴した生徒の中には、「老人ホーム」を選択したものが多く、視覚による情報の影響の大きさと提示資料の選択の難しさを考えさせられるものであった。分野別の話し合いは、少人数に分けたことで活発に行われた。全員が話し合いに参加し、意見を言うことができたのは、調査活動をグループ活動でなく個人の活動として行なったことで、一人一人が高齢化社会について「自分で調べたこと」に対する自信を深め、「自分なりの意見」をもつことができたためと考えられる。普段社会科を苦手とする生徒も話し合いに参加し意見を言う姿がみられたことは、個人の調査活動の意義を大きく感じる場面であった。

ロールプレイ的パネルディスカッションには、生徒は概ね前向きな姿勢で取り組むことができたが、パネリストとフロアーとの討論にはいたらなかった。理由として高齢化社会の問題が多岐にわたるため分野相互の接点が見付けにくいこと、準備の段階でフロアー、パネリスト双方への発言内容や発言方法への指導が欠けていたことと考えられる。また、パネリストが分野の代表として発言するため、自分がそれまでに調査した内容がパネリストとしての発言に生かされない面があり、フロアーからの質問に的確に答えることや分野の代表として「将来の高齢化社会への提言」を行なうまでにはいたらなかった。発表原稿を作成した段階でそれをもとに分野内で検討する時間を確保する必要があるとの反省が残る。

高齢化社会に関する事前意識調査(集計結果)

1. あなたは、「高齢化社会」という言葉を聞いたことがありますか。
(聞いたことがある「83名」 聞いていない「15名」)

2. 「高齢化社会」とはどんな社会だと思いますか。
・高齢者の割合が高くなる社会「16名」・高齢者の人が増えている社会「14名」
・高齢者がいなくなる社会「13名」・年寄りがたくさんいる社会「12名」
・働く人の年齢が高くなる社会「12名」・老人をいたわる「11名」
・高齢者がいなくなる社会「11名」・老人ホーム、病院に住む老人が増える「11名」
・おじいさん・おばあさんがいなくなる社会「11名」・老人が増え、老人のための施設が増えていく「11名」 など

(中略)

6. これからさらに高齢化が進むことに対して、あなたはとう思いますか。
・とても関心がある「10名」 多少関心がある「45名」
・あまり関心がない「32名」 無記入「11名」

(中略)

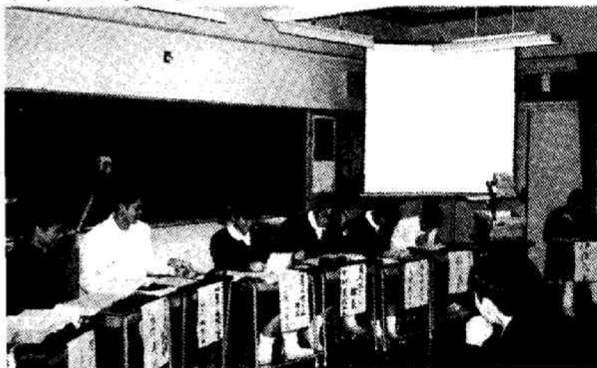
8. 現在、あなたは高齢者と接する機会がありますか。
(ある「41名」 ない「45名」 無記入「11名」)

9. 8で「ある」と答えた人へ聞きます。それはどんな機会ですか。
・家にいる「10名」・祖父の家にいく「10名」・田舎で「6名」
・祖父が来る「2名」・親の友達(近所)「2名」
・祖父の友達が来たとき「1名」・ボランティアで一人暮らしの家にいった「1名」
・父が62歳「1名」・弟、バス、学校で「1名」

(中略)

12. 高齢者はどんなことを一番不安に感じていると思いますか。
・面倒を見てくれる人がいない(病气、健康、一人暮らし、身体、食事)「20名」
・今後の生き方「16名」・死「15名」・車「13名」・家族に見放される(家族から離れること)「13名」
・一人暮らしで死が近づいてきたとき「12名」
・子どもが会いに来てくれるか(子どもの同病)「12名」・孤独「12名」
・福祉施設が少ない「12名」・家族に見放されて死ねるか「11名」
・老人ホームに入れられること「11名」・年金が少ない「11名」
・働かなくても生活して行けるか「11名」・ホケが始まったとき「11名」
・差別、おかしがり「11名」・あまり外に行くことがなく、家にいっぱなし「11名」
・まわりからどう思われているか「11名」 など

ディスカッション



社会科自己評価表集計結果 (全組合計 88名)

1. 自分で調べてみようと思うことを見つけたことができましたか。
A(48名) B(30名) C(4名) D(5名) E(1名)

2. 興味・関心をもち、意欲的に調べ活動ができましたか。
A(38名) B(36名) C(12名) D(2名) E(0名)

3. 集めた資料をもとに、自分なりに考えたり、判断したりできましたか。
A(39名) B(36名) C(12名) D(1名) E(0名)

4. 自分の調べたことをもとに、うまく発表(話し合い)ができましたか。
A(14名) B(30名) C(34名) D(6名) E(4名)

5. パネルディスカッションや他の人の発表を聞いて、自分の考えを深めたり、新たな考え(意見)を持つことができましたか。
A(33名) B(29名) C(22名) D(3名) E(1名)

6. 以前よりも、高齢化社会について、興味や関心が深まったと思いますか。
A(49名) B(32名) C(6名) D(1名) E(0名)

7. 自分が高齢化社会を形成する一人だという意識が持てましたか。
A(30名) B(42名) C(14名) D(0名) E(2名)

8. 今後も社会科の授業の中で、こうした学習方法をやりたいと思いますか。
A(33名) B(26名) C(20名) D(5名) E(4名)

6 研究のまとめと今後の課題

公民的分野の分科会では「学ぶ意欲を持ち、自己の考えを表現できる場がもてる授業」を主題として研究を進め、次の点を明らかにし、今後の課題を見出すこともできた。

(1) 研究のまとめ

研究をまとめるにあたって本分科会の研究のねらいに基づいて次の2点について考察した。

ア 「生徒は学習意欲が継続したか」

- ① 生徒は予想以上に予備知識も関心もあり、学習意欲をもつのに適切な単元の選択であった。
- ② 生徒の主体的な活動を尊重して、問題の自由選択、問題ごとのグループ編成、調査活動の実施にあたって教師がその援助に徹したことなどの配慮は、生徒の意欲的な活動を引き出し継続させるのに効果があった。
- ③ ロールプレイ的パネルディスカッションも、生徒が調査した内容や自分の意見の効果的な伝達方法を工夫したり、積極的にコーディネーターとして参加した生徒の存在などによって、生徒の意欲を継続させるのに役割を果たしていたと考えて良い。

イ 「生徒に自分が考えて判断する力が育ったか」

- ① 問題と調査方法を生徒自身に任せ教師がその援助に徹したことで、生徒は自発的に判断し工夫して問題を選び調査ができた。例えば、自発的に学区域内の老人ホームへ取材に行ったり、家族の中にお年寄りがいない場合近隣のお年寄りにインタビューするアポイントメントを取りついたりしたことなどがあげられる。
- ② 生徒の発表と意見交換の時間を多く設けたことは有意義であった。調査活動の最初に仮に選択した問題を発表し、その調査方法にまで意見交換が及んだことや調査活動の最後に生活班へもどって自分の調査したことを発表した。このことが、もう一度自分の調査したことや意見を見つめ直す機会となった。また、ロールプレイ的パネルディスカッションは、その準備の中で論題に合わせて自分たちの調べたことや意見をさらに体系づけることができた。
- ③ 生徒が自分の考えと判断でどのように意識の変容があったかは、事前に調査したアンケートの結果と事後の自己評価表や「私の提言」の内容のを比較検討によって明らかになった。事前アンケートで「高齢化が進むことに対して関心がない」と答えた者が3分の1程度いたのに対し、自己評価表で「高齢化社会について関心が深まらなかった」と答えた者はクラス平均1～2名に変化している。また、「私の提言」でも過半数の生徒が社会全体の問題として考えるだけでなく、何らかの形で自分自身が積極的に関わるべきだと考えている。

(2) 今後の課題

本分科会では、生徒の意欲をさらに深め、自分の意見の再構築の場としてロールプレイ的パネルディスカッションを選んだが、いくつかの問題点が残った。議論の接点を持った論題の選び方、活発に議論ができるようなロールプレイ的パネルディスカッションの指導方法、多様な議論に対応する調査内容を得られる資料の準備などが、今後の問題として研究が必要である。